

2018年(平成30年)

第122号

(2月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

川端理事長ご来道 ～「仏さまはすべてご照覧」とご講話～

1月10日、脇祖さまご命日式典において川端理事長がご来道頂き、多くの会員がご講話を拝聴しました。式典は読経供養後、会長先生の年頭ご法話拝読、佐藤教会長あいさつ、ご法話を拝読して各部代表8名の発表と続きました。

佐藤教会長はあいさつの中で「今やらねばいつできる、私がやらねば誰がやる」という言葉を引用し自燈明・法燈明の大切さを説明されました。

各部代表の発表では「毎日組で教会に来ているが、自分の教えの受け止め方を反省したい」「物事を後回しにせず、目の前の事柄に取り組んでいきたい」「出合いを大切にしていきたい」「感動・感謝を言葉に表していきたい」「先々のことが気になり目の前のことに取り組めない自分だが「今」を大事にしていきたい」「支部長さんのご指導に基づき精進していきたい」「草木が日々成長していくように、子供を通して、またお役を通して自分も成長していきたい」「自分と向き合ってどんな大人になっていけばいいのか、自立した大人を目指して今していきたいことを見つけたい」「お役や学業でしなければならないことがたくさんあるが、目の前のことに集中していきたい」「信仰を始めて四十余年、多くの方々に支えて頂いてきた。サンガと共に布教推進していきたい」「先達の方々の方便力によって育てられてきた。ご供養、手取り導き、法座、ご法の習学の大切さを伝えていきたい」など、多くの誓願がありました。

その後、柳田渉外グループ次長が登壇され、京都市成人式での姓名鑑定コーナーにふれ、新成人を祝して幸せになってもらえるように親孝行の実践などを促す姿は心温まりますと、他府県では例がないと感想を述べられました。



川端理事長はご講話の中で「学生の頃、西大路九条にあった旧道場にはよくお邪魔したことがあった。当時は滝口教会長さん。大阪教会では多くの支部長さんに育てて頂いて、自分の仏性を引き出して頂いた」と述懐。今年は創立80周年。100周年に向けて基本構想がまとまり、間もなく皆さんのお手元にも届くと思えますと、新たな20年の始まりを宣言されました。また教団創立61周年記念日の庭野開祖のお言葉から、『私が会を創立したのは、1人でも多くの人に法華經に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにして頂きたい。私の努力のすべてはこれに尽きると言っても過言ではありません』と紹介。信仰する人の一番の幸せは「仏さまはすべてご照覧だ」ということ、今がどんな状況でも救って下さるとし、如来寿量品の「我常に衆生の道を行じ道を行ぜざるを知って度すべき所に随って為に種種の法を説く。毎に自ら是の念を作す。何を以てか衆生をして無上道に入り速やかに仏身を成就することを得せしめんと」と仏さまは万全の体制で一人残らず救って下さると、そのありがたさを述べ結ばれました。

将棋の藤井聡太四段が史上最年少棋士や連勝記録を更新しました。彼の強さは、幼い頃から努力の積み重ねと、AI(人工知能)将棋による発想力が根本にあると言われている。▼先日、小学校のコミニティの集まりで校長先生から「今の小学生が社会に出たとき、65%の子供たちが今の世の中になく、仕事に就くと言われまして、現在ある仕事がない。▼だからこそ、これから今までの延長線上にはないものになるので、創造力のある人材の育成が教育の世界で求められている、と言います。▼これは、子供たちだけの問題ではありません。大人にとって、前例主義に陥ることなく、常にフレッシュな気持ちをもって、創造的な生き方を目指すべきでしょう。年頭の会長法話もそのように述べておられました。

時事刻々

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～人生を厳粛なものに～

少年部長 齋藤晃世

教団創立八十周年の幕開けは「大歓喜」に匹敵する「大寒気」が日本列島を大きく包んで、自然の営みを味わうのに最適なスタートでした。大寒気の中の寒中読誦修行、皆さま、本当にお疲れ様でした。皆さまに大歓喜は訪れたのでしょうか？

今月の会長先生のお言葉は「人生を厳粛なものに」です。とうてい厳粛とは言えない人生を送る私としては読みたくない気持ちになりました。でも会長先生は私の心をお見通して、分かりやすく教えて下さいました。「ひと」はそもそも生きています。すでに厳粛な人生を歩んでいるのに私が意識していないだけだと言うのです。もっと分かり易く言えば、「いまを大切に生きること、一日を、一時間を、そしていま目の前の一分一秒をおろそかにしないで、ていねいに暮らすことが大切です。」と書いて下さいました。そして、その為にはリズムよく「ポンッ」と心に真理の電流を流し、「パッ」と心に「真理の灯り」をともしのが良く、ありがとうという感謝の言葉が身につけば、ことさら意識しなくても、私たちの日常は自然に厳粛なものになっていくと教えて下さいました。

昨年十二月の初めに私は左手首を軽く床に突いて痛めてしまいました。持病を持つ私には軽い怪我も治りが遅いのが普通なので、日にち薬だろうと思い湿布を貼って過ごしていました。が、年が明けても痛みは治まらず、ある日、急に痛みがひどくなったので病院でレントゲンを撮り診察を受けました。骨に異常はないけれど、一部小さく石灰化しているのが悪さをしているのだろう。このように身体の一部が石灰化するのは私の持病であれば避けられないので、対処するには痛みがひどくなった場合に注射をして過ごすしかなく、石灰化はいつ、どの部分に起こるか分からず、痛みが出るか出ないかも分からないので「仕方がないね

…」と説明されました。この症状のリスクがあるのは知っていましたが、やはりショックで私は何も考えなくなりました。「生きている」ただそれだけで不安でいっぱいです。どんどん溢れ出す不安をなんとか堰き止めなければと、勇気を出して「ありがとう」と小さく呟きました。ありがとう、ありがとうと繰り返しながら手首をそっと撫でてみると、少しの腫れと熱があるのに初めて気がついた自分にびっくりしました。私は私の身体に関心を持たずに生活しているのです！自分の体に申し訳ないと感じて、この痛みは私に何かを教えようとしているはずだと思い直し、心を振り返ってみました。身体の中でいつ・どこで・どのように物質同士が逢い、石灰化するのとはまるで「因縁果報」そのものではないか。しかも痛みが出る、出ないが分からないと言うのも受けとめ次第で報いがどのようにでも変化するという「無常」の教えそのままです。私の身体は私のものではなく仏さまからの預かりもの。やはり真理の法則から外れることはない。だとしたら、はしくれであっても仏さまのことをさせて頂くこの身体は、ていねいに使わなくてはいけないのでは？と思うようになりました。この小さな石灰化の痛みはこんなに大きな気づきを私に教えてくれました。徐々に痛みは消えましたが、今でもふと痛みが走ることがあり、石灰があることを思い出します。私には病気のリスクがあること、だからこそていねいな食生活、ていねいな暮らしをすること。病気をもちながらもいま、こうして居られることに感謝を忘れないように。と知らせてくれたのです。ありがとうの呟きが、(ああ、有難い)と心の深くから感じる心になりました。「ひとさまにも、自分にもていねいに歓心をもって生きる」教団創立八十周年の節目の初めに頂いたこの大歓喜に感謝し、私の生き方を「ていねい」に切り替えていきます。 合掌

元旦参りで気持ちも新たに ～先達に感謝し80周年を迎える～

平成30年1月1日、法座席において元旦参りが開催され、朝6時30分からの式典に多くの会員が参拝しました。読経供養の後、門川市長及び京都議員懇話会の植田幹事長から挨拶、議員紹介、佐藤教会長の新年のお言葉がありました。

門川市長は市長就任時、佼成会が70周年だったが今年は80周年という慶事であることにふれ、庭野開祖が永年、宗派を超えて活動されてきたことを讃嘆されました。そして京都は千年を超える独自の文化があるが常に新しい文化と交流する必要がある、政治と宗教は一線を画するものの協力することも大事だと述べられました。

植田幹事長は限界集落の存在から「継ぐ」ことの大切さを述べ、佼成会も今後100周年に向けて更なる発展をして頂きたいと期待を寄せられました。

佐藤教会長は今年80周年を迎えられたのも先達の方々への感謝を忘れてはならないと述べるとともに、京都教会も地域の方々がおられるお陰で存在しうると感謝の気持ちを話されました。また、今後はお互いさま「自立した信仰」を持つように促され、自燈明・法燈明の大切さを述べられました。最後に、佼成会は菩薩行に挺身する会であって、今年も行動を共にしてくれる方を増やしていきたいと結ばれました。

新成人を皆でお祝い ～京都市成人式ボランティア&第52回成人式～

1月8日、京都市左京区のみやこメッセにおいて「京都市成人の日記念式典」が開催され、ユース21 京都に加盟している青少年団体が運営ボランティアとして参加しました。昨年までの京都市教育委員会に代わり新たに創設された京都市こども若者はぐくみ局が運営主体となり、ユース21 京都と協力しながら行いました。当日を迎えるにあたり、昨年から数回の打ち合わせをし、特に会場前の二条通りの成人者動線については警備会社とも協議を重ねてきたものです。

京都教会では青年部が中心に青年ボランティア11名、布教支援室のメンバーが中心に姓名鑑定者14名が参加し、運営の一助となりました。今年は当日があいにくの雨模様となり、青年部が担当する場外誘導では困難な場面もありましたが、終始笑顔を決やさず「おめでとうございます」の声かけに「ありがとう」と返されるなど成人者とのふれあいを大事にしました。

姓名鑑定はユース21 京都のブース内で行い、成人者が途切れることなく、自身の運勢について熱心に聞き入っていました。およそ100名の鑑定を行いました。誰もが鑑定してもらって良かったと満足した様子でした。「自信がついた」「当たっててすごかった」「自分の名前からいろいろアドバイスをしてもらったことが嬉しかった」「良いことだけでなく引き締めるようなことを言ってもらえた」「自分も人も肯定的に見ることで幸せになることを深く知ることが出来た」など多くの反響がありました。



1月14日、京都教会法座席において「第52回成人式」が行われ、5名の新成人と多くの会員が参加しました。京都教会では前年にお祝いしてもらった成人者が実行委員会を組んで今年の運営に主体的に携わることが伝統とされており、その取り組みが52年間も続いて来ました。

今年も法座席での第1部式典、体育館での第2部パーティーが行われ、厳粛さと温かみのあるものになりました。第1部式典では、読経供養、成人者紹介、記念品贈呈、佐藤教会長のお言葉と続きました。佐藤教会長は法華経の薬草論品にふれ、大きな木も小さな木もそれぞれが相応しく命を輝かしていくことが大事であり、みんな同じにならなくてもそれぞれの分に応じて発揮する、それぞれの個性が大切であって、それぞれがあるから世の中が成り立っていると説明。それぞれが勇気をもって私らしくやってみることが大事だと述べ、自分のことばかり考えるのではなく、人のことを考えることで幸せになれると、さらなる活躍、精進を期待されました。

第2部パーティーでは壮年部が調理のお手伝いをしました。また、さまざまなアトラクションを行い成人者と親睦を深めました。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まった新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【果報は寝て待て（かほうはねてまで）】

あせらず待っていれば、幸運は必ずやってくるという意味に使われる。しかし、何もしないでただ待っていればよいという、虫のよいことわざではない。果報とは「因果応報」のこと。よい行いをすれば、いつか

よい結果が得られるが、悪い行いにもそれなりの報いがやってくるという、戒めに満ちた言葉なのだ。

日本では、運のよい人、幸せな人のことを果報者というように、幸運のほうだけがひとり歩きしたようだ。（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- 積雪の様子、雪だるまの写真
- 豆まきの様子

宗教から見た平和『現代世界と平和』～庭野開祖の法話より～

庭野開祖は「世界平和はけっして“よそごと”ではない」と述べておられます。そして「私達の一日一日の生活が世界平和に結びついた実践」であるとも語っておられます。私たちは「平和」でありたいと願っていますが、それは政治家や国家がすることだと思っている人が多いのではないのでしょうか。開祖が言われるように、私たち一人ひとりの心のあり方や実践行動が「世界平和」につながっているという認識を持つことが大切だと考えています。(編集部)

◆平和への道(2)

今、世間で言われ、行われている「自己を尊重する」とか、「自己を主張する」という、その自己は決してほんとうの自己ではありません。＜無明＞がつくり現わしている「私の垢(あか)」に過ぎないのです。もっと平たく言えば、自己中心主義がつくった「身の殻(から)」に過ぎないのです。

ほんとうの自己というものは、懸命になって守ったり主張したりしなければ他に押し潰されるような、そんなはかないものではありません。宇宙のいのちと一体の、清らかで、しかも強い、人間の靈性なのです。宇宙のいのちと一体であるから、他のすべてのものと融合し、調和し、みんなと共に生きるという性質を持っているのが、ほんとうの自己なのです。

それゆえ、私の垢を洗い落とし、自己中心主義の殻を脱ぎ捨ててこそ、初めて尊厳な「ほんとうの自己」が顕れ出るのであって、その「ほんとうの自己」が顕れ出ると、他のすべての人々との融合・調和・共存共栄という、人類の理想に近づくことができるわけです。

ですから、私の突っ張り合いと自己中心主義の角突き合いによって、のっぴきならぬ危機に追いつめられた、この地球と人類を救うには、どうしても、世界中の人々が「下がる心」を心とするようにならなければならない、と私は確信するのです。

立正佼成会では、創立当初から「下がる心」ということを人間の生き方の大事な心構えとして、説いてきました。その根底をなす思想は、何事につけても、まず自分を反省し、その過ちを懺悔(さんげ)することから出発し、小さな我を捨てて、大きな道理に従う態

度を持つことこそ、自分を幸せにし、世の中をも平和にする根本の道であるということです。

宗教による世直しは、人間ひとりびとりの心の改造を行い、それを丹念に積み重ねることによって、地道に、しかも着実に世の中を明るく、和やかにしていこうというのが正道です。この「心の改造」というのは、目先の利益よりも永遠の真実を求め、物質的な繁栄よりは精神の高さを喜びとする人間をつくろうと目指すものです。

「人間の心を変えるというのは難しいことだ。百年河清を待つに等しい」と考える人も多いかもしれませんが、案外そうではないのです。物を変えるよりは易しいと言ってもいいのです。ここに木材がありますが、その木材を「鉄に変えなさい」と言われて、あなたは、それができますか。それに対して「あなたの心を占領している争いの気持ちを捨てなさい」と言われたら、絶対不可能とは感じないでしょう。「やればできる」と感じるでしょう。昔から、極悪非道の人間が名僧・高德の諭しによって、即座に立派な心の持ち主になった、という例はたくさんありますように、変えようとおもえば、心は一瞬にして帰ることができるのです。

私は人間を信じます。絶望していません。正しい宗教の広宣流布によって、必ず人間の心は真へ、善へ、美へ、聖へと近づいていくものと信じています。そして、都の中の多くの人々がこのように変わってきたときに、ほんとうの恒久平和がこの世に打ち立てられるのです。

(つづく)

2～3月の主な教会行事			●メッセージ
2月1日(木)	9:00～	朔日参り	<p>大手総合電機メーカーであるパナソニック(株)の創業者が松下幸之助であることはご存知と思います。1918年(大正7年)3月7日、「松下電気器具製作所」を3人で創設し、今年100周年を迎えるそうです。企業が100年の歴史を積み重ねてこられたことには大きな意義があるに違いありません。立正佼成会も1938年(昭和13年)3月5日、30人ほどで創立され、今年80周年を迎え、100周年に向けて歩みだしました。開祖さまの「法華經に示された人の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにして頂きたい」という願いを我が願いとしていきたいと思ひます。</p>
3日(土)	9:00～	節分会	
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日	
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日	
15日(木)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日	
3月1日(木)	9:00～	朔日参り	
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日	
5日(月)	9:00～	教団創立80周年記念式典	
9～10日	9:00～	ご本部当番修行団参	
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日	
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日	